

いちかわ 自然観察 ガイドマップ 1

北部 I
国府台～曾谷～北国分



～地域のあらまし～

下総台地の西端に位置するこの地域は、かつて下総国の国府がおかれ、市川市でも古い歴史をもっています。台地上には貝塚や国分寺、国分尼寺跡、古墳などの遺跡がたくさんあり、奥深く入り込んだ谷津との境には斜面林が発達しています。地域の南の低地には真間川が流れ、手見奈伝説などの残る歴史ある地域です。

市川市

市川自然観察ガイドマップについて

市川市では、市民の皆さんに身近な自然環境に目を向けていただき、そこに生息する動植物の姿や自然のしくみについて知っていただくため、市川市を6つの地域に分け、地域ごとに順次自然観察ガイドマップを発行しています。市川市の自然環境は決して豊かとは言えませんが、海、低地の市街地、川、谷津、斜面林、台地上の農地など、バラエティーに富んでいるのが特徴です。

自然観察ガイドマップは、地域の自然の見どころを紹介したマップとあわせて、市川市の自然を観察する上でのテーマを、各マップに10テーマずつ合計60テーマ紹介しています。どうぞ休日のお散歩のお供にいただき、身近な自然をお楽しみ下さい。

市川市では市川の自然を紹介する下記の資料を発行しています。

- 発見・市川の自然
- 市川の自然・緑と水辺のまるごとガイド
- 江戸川放水路・生きものまるごとガイド
- 市川市巨樹・巨木林調査報告書

また、歴史や文学に関する出版物も発行しておりますので、詳細についてはお問い合わせ下さい。

市川自然観察ガイドマップ 1 北部 I (国府台～曾谷～北国分)

平成18年3月(改訂)
発行 市川市
編集 市川市環境清掃部自然環境課
自然環境専門員 高野史郎
〒272-8501 市川市八幡1-1-1
Tel.047(334)1111(代)

定価50円(税込)



利根川と江戸川

千葉県北端、関宿で利根川と分かれて東京湾にそそぐ約55kmの川が江戸川ですが、かつてはこの流れが利根川の本流でした。

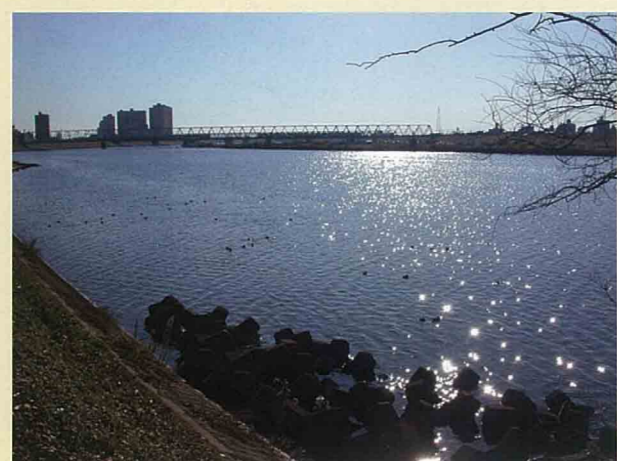
江戸時代の記録に残る最初の大洪水は、寛永元年(1624)8月のことで、下流が大害に見舞われたといわれます。

こうした洪水から江戸を守るためと、水運の開発を目的に、利根川東遷事業が17世紀に実施され、利根川は銚子へと流れを変えました。

しかし、その後もたびたび起こる洪水対策として放水路が計画され、カーブした江戸川と東京湾とを最短距離で結ぶ大和田から上妙典の地域が選ばれ、江戸川改修工事(明治44年～昭和5年)の一環として大正中頃に完成しました。

行徳可動堰で仕切られた下流部分は、潮の干満により海水が入り出す、いわば東京湾の入江です。浅瀬、干潟、ヨシ原と続く昔の海辺の風景が今も見られる貴重な河口となっています。

昭和40年(1965)からは、この新しい放水路の流れを江戸川、浦安に向かう江戸川本流を旧江戸川と改称されています。



国府台2丁目付近の江戸川

地図を持って歩こう

自然観察に出かける時、何を持って出かけますか? ポケット図鑑、双眼鏡、フィールドノート、ルーペなどでしょうか。

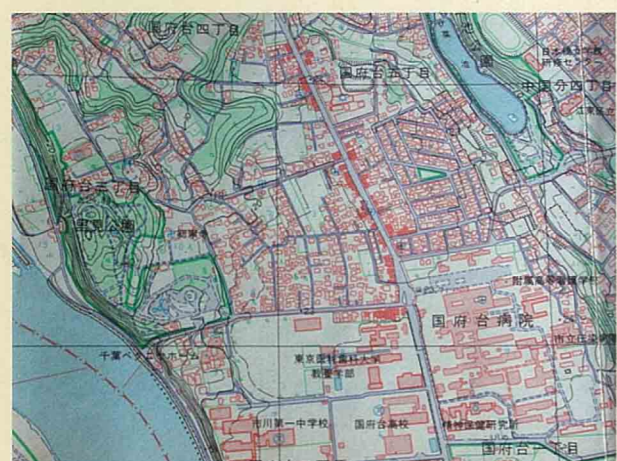
この中にぜひ加えてほしいのが地図、それも等高線が入っている地形図です。山歩きする人には2万5千分の1などの地図がおなじみですが、まちなかではどんな地図が便利でしょうか?

このあたりの地形は、谷津が台地の中に深く入り込んでいます。道路も直線とは限りません。高低差のある崖があったり、急坂だったりします。

鳥や木々を眺めながら細い道に入り込んだりすると、道に迷うこともある。こんなときには町名や番地が入っている地図だと現在地が確認できます。

等高線が入っている地図が便利なのは、谷津と台地、地形の歴史がわかること。そして、斜面林には開発から逃れて、貴重なまちの緑が残されている可能性も高いのです。

いろんな地図を比較して、情報整理するのも楽しい。起伏に富んだ市川のまちの再発見です。



国土院1万分の1地形図“市川”から

川の流れると土手の道

この地域には、いくつもの川の流れがありますが、真間川を除いて国分川も春木川も北から南への水の流れです。

千葉県は四方を水に囲まれた県ですが、市川市の特徴の一つは、江戸川をはじめとする川、海、そして多くの水辺があることです。

植物はもちろん、すべての生きものには、血液などの液体の流れがあります。まち全体にも水の流れがあって、上流から下流へ、そして東京湾へと流れが繋がっています。

真間川は、潮の干満などで水量が増減し、流れの方向が変わります。コンクリートで固められた護岸にもどこからかタネが運ばれ、小さな隙間に根を伸ばして、何種類もの植物が茂っています。注意して見るとコイやフナ、ボラなどの魚が泳いでたり、カモメやカワウを見かけることもあります。

江戸川土手にはどんな草が? 年に何回もの草刈に耐えて生き残るのは、素早く花を咲かせて実をつけるものか、踏み圧に強い草か?

里見公園の西側、旧坂川の河口だった所は、自然のビオトープのような環境で、野鳥や昆虫も訪れ、四季の移り変わりが楽しめます。



川辺の風景が楽しめる旧坂川付近

花をめぐる風と虫と

花の咲かない木を探そう——こんなテーマでまちの中をみんなで歩いて見ましょ。どんな植物の名前が浮かんできますか? でも、タネをつけない植物ってあるのでしょうか。それは、どんな方法でふえる?

この地球上にまだ昆虫たちが現れる何億年前の昔、花粉をなるべく遠くまで運んでもらおうと頼りにしたのが風でした。風船のように軽い花粉を大量生産した風まかせの時代です。

昆虫たちが出現し、次々と進化して種類数をふやすのは4億年ぐらい前の古生代シルル紀頃から1億年ぐらい前の中生代の終りにかけてといわれています。

虫に来てもらうために、目立つような花びらと、甘い蜜を用意するようになる。風媒花から虫媒花への進化が始まった!

虫を呼ぶための花の構造と、べたべたした花粉への方向転換です。気の遠くなるような長い年月を経て、植物と昆虫が互いに影響しながら進化したと考えられています。

まちでチョウを見かけたら、幼虫が食べる食草は何で、それはどこに生えているのだろうか考えてみましょう!



市街地のオオケタデとアオスジアゲハ

斜面林と雑木林

JR市川駅から5分ほど西へ歩いた市川公民館の横、大門通りを北進すると、国府台の斜面林に突き当たります。

東京方面からの電車が江戸川を渡った時、すぐに目に入ってききれいな斜面林がここです。

近づいてよく見ると、緑の繁みの形が少しずつ違う。弘法寺あたりは、スタジイ、タブノキ、クスノキなどの常緑樹の高木層。その下には、シロダモ、ヤブツバキ、アオキ、ビナンカズラなどが茂っています。

里見公園・寧寧寺脇からの細い道を北へ入った雑木林は、新緑の季節も素晴らしい。明るい緑はイヌシデ、白っぽい緑はたぶんコナラやクスギの芽吹きです。若葉の季節から夏になっても、落葉樹の林は葉脈が透けて見えるような感じで、木漏れ日も楽しい。

林の中へ入れば、落ち葉の道はふかふか。森は緑のダムといわれるのが実感されます。太い木と細い木、見上げる木々の年齢に見当をつけて、この林のたどった歴史とこれからの、思いをめぐらしましょう。

2004年の暮れには、国府台4丁目に“ふれあいの道”が整備されました。



弘法寺近くの新緑のクスノキ

花の色・葉の色いろいろ

春一番に咲くのは、黄色い花が多いといわれています。菜の花、タンポポ、サンシュユなど。まだ、あたりがセピア色の寂しい風景の中で、青空をバックに目立つのは黄色だからと。

でも、紫や青い花だって多いのです。ホトケノザ、オオイスノフグリ、スミレなど。色別に季節と環境のかかわりを調べてみると、面白い地図が出来そうです。

梅雨時の薄暗い風景の中では、アジサイやミズキの白い花が目立ちます。

夏の夜に開くカラスウリの白いレース模様は、遠くから気がついて、ガを誘うための精いっぱい振る舞いのようです。

秋のモミジは桜前線とは反対に、山から里へ、北から南へと下りてきて晩秋を飾ります。日照や昼夜の温度差などで、毎年微妙に変わります。1本の木でも北側と南側では色が違います。

かつて真間山弘法寺はモミジの名所でした。今は里見公園の北側の奥やじゅんさい池のまわり、大町の自然観察園などが11月下旬から12月にかけて見ごろになります。

大町では、コナラなどのシックな枯葉色のグラデーションも素敵です。



里見公園奥のイロハモミジの紅葉

鳥たちの暮らし

バードウォッチングの楽しさは、鳴き声とともに、それぞれの鳥のユニークな色彩でしょうか。カワセミはいつも人気者です。

サバナで狩をする肉食獣の多くは、鳥と違って地味な茶色をしています。たそがれ時のほの暗い光の中では、色の区別を必要としないからだといわれています。

鳥たちは人と同じように色の区別がつき、配偶行動できれいな色や形が選択の基準になったりします。メスが地味な色彩なのは、3~4週間の抱卵中に、天敵の目から逃れるための保護色なのでしょう。巣を作る場所は、藪の中、川原、木の繁みと、鳥それぞれに多様です。

この地域で水鳥の見られる場所は、里見公園付近の江戸川、じゅんさい池など。10月頃から4月頃までは冬鳥が中心です。ユリカモメは、ふわっと軽そうに着水する。潜水が得意なカワウは、背中すれすれに沈んで見えます。

野生に生きる鳥たちは、自分で餌を探し、季節が来れば渡りをする。どこで寝て、どこで子育てをするのだろうか。

野生動物とは少し距離をおいて、安心して暮らせる環境を守ってあげたいものです。



餌付けに集まるじゅんさい池のカモ

広がる外国産の生きもの

セイタカアワダチソウやセイヨウタンポポが外国生まれなこと、みんな知っています。

日本列島に昔から自生していたものと、外国産の帰化植物との比率を帰化率といっていますが、宅地開発や河川改修などで今までの植生が破壊された所では、この比率が高まります。

それまでの秩序が乱され、いわば早い者勝ちのような状態に戻されてしまう。ここでスタートの早いもの、タネをたくさんつけて遠くまで飛ばせるものなどが、大きな面積を占めることになります。

反対に絶滅危惧種の場合は、環境の変化についていけないとか、繁殖力が弱いなどが原因でしょう。フジバカマの自生種が絶滅状態なのは、生育場所だった川沿いの湿った場所が、次々とコンクリートで固められてしまったからです。

外来動物では、飼育場所から逃げ出したり、小さい時は可愛がったのに飽きてしまって、放り出してしまったのが異常にふたさっけとされています。

外来生物をかつては帰化種と呼んでいました。



セイタカアワダチソウとアメリカザリガニ

縄文時代の遺跡・堀之内貝塚

市川には縄文時代の遺跡が50ほどありますが、その一つが堀之内貝塚です。

縄文時代前期の5000年前頃までは、台地の上にはクスギ、コナラ、ケヤキ、イヌシデなどの落葉広葉樹の林が広がっていたと考えられています。そして、海面の後退につれて沼のような低地には、イネ科やカヤツリグサ科のような細い葉の植物が茂り始めたようです。

長い間、貝を採り続けた後の貝塚は、保存食料として加工した場所だといわれています。細長い台地の斜面に貝殻を棄てたため、U字型の堆積が見られるのが堀之内貝塚です。

かつての奥東京湾の最初の谷である国分谷に位置し、東西約225mという大きな馬蹄型貝塚で、貝殻の見当たらない中央部がムラの共同広場だったと考えられています。

貝の種類は、ハマグリ、キサゴ、サルボウ、アカニシなど約30種。シカやイノシシなどの骨、スズキ、ボラ、マダイなどの魚の骨も17種類あって、丸木舟や船着場も予想されます。

明治時代から広く知られ、何回かの発掘調査により、堅穴住居跡、人骨、人耳や石器、そして“堀之内式土器”などが発見されました。



堀之内貝塚に散らばる貝殻

市川も温暖化している?

雨の多い日本列島の自然は、最終的には森林になるといわれています。今までの林が伐採されたりして裸地になると、はじめて出てくるのがススキや笹、ノイバラなど。やがてアカメガシワなどの木が生え始め、再び林へと戻っていきます。

最後は、ブナ、タブノキ、スタジイなどの常緑樹の極相林になるのですが、台風や落雷などで部分的に攪乱されたりして、全部が同じ状態になるわけではありません。

最近目立ってきたのが、シュロの増加と、手入れされずに放置された雑木林への竹の侵入です。

シュロは南方系植物の多いヤシ科植物の中でも一番寒さに強い種類ですが、30年ぐらい前までは、林の中には見られませんでした。

庭に植えたシュロの実を、鳥が運んだのでしょうか? 野山に野鳥が食べるような木の実が少なくなったのでしょうか?

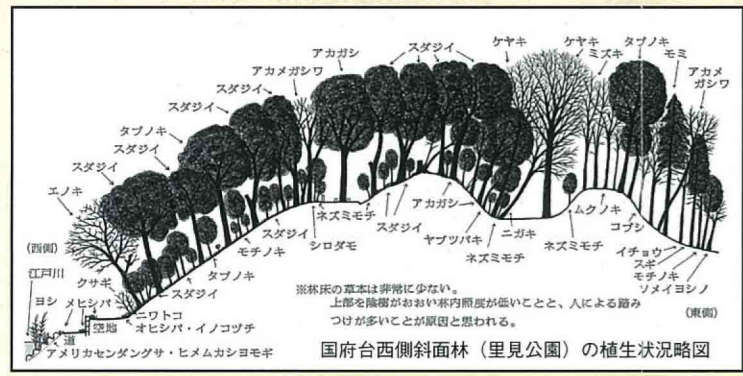
ヒートアイランドの市街地に霜が下りなくなってシュロが茂り、亜熱帯のような風景になり始めているのは、地球が温暖化しているからだという意見もあるのです!



弘法寺の鐘楼南側に茂るシュロ

いちかわ 自然観察ガイドマップ 1

北部 I 国府台～曾谷～北国分



16 堀之内貝塚公園(上)と小塚山市民の森。縄文時代後期の貝塚公園を中心に、歴史博物館と考古博物館がある。



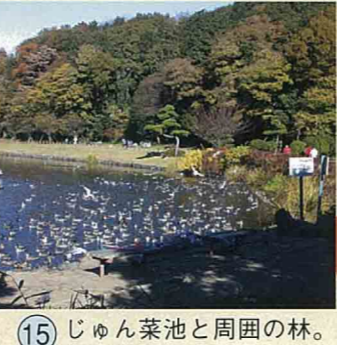
12 旧坂川の北側道路上から南に見る里見公園付近の斜面林。



13 国府台の辻切り、外から侵入する悪霊を防ぐため、部落の四隅に飾られ今も伝承されている。



14 里見公園東側の道を北へ進んだところに新しく「国府台ふれあいの道」がつけられた。



15 じゅんさい池と周囲の林。冬には北からやってきたカマドで暖わう。北半分は水生植物の保護地区として大切に管理されている。



6 弘法寺の伏姫桜、4月はじめに咲く。



11 復元されて画廊としても使われる木内ギャラリー。クスノキの巨木に囲まれている。



9 10 切通しと壁面のマメツタ

内唯一の生育地として残されている。市



8 国府台から里見公園にかけての斜面林は、スダジイやクスノキが多い。緑の回廊がここから始まる。



5 斜面林に包まれた弘法寺への階段

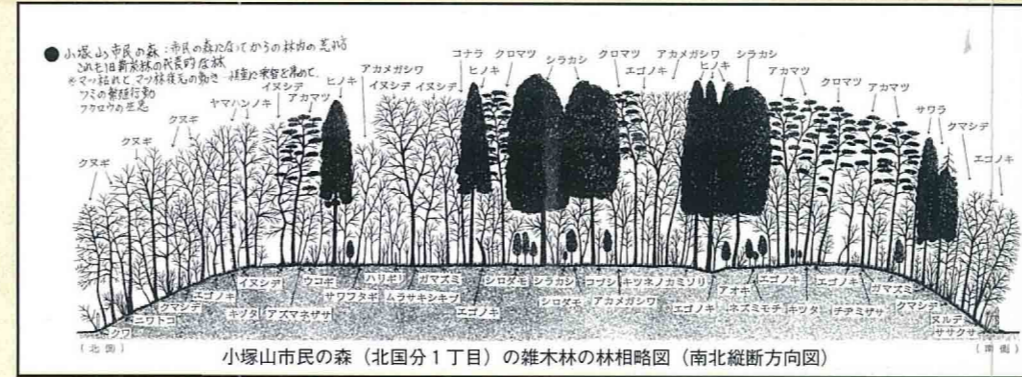


3 万葉時代を偲ぶ真間の継橋。



2 市川公民館から北へ向かう大門通りの入り口。1kmほど先の右側に手見奈堂が、真っ直ぐの先の階段を上れば真間山弘法寺となる。京成の踏切りあたりの僅かに高い地形が、市川砂州であることにも気づいて欲しい。

18 愛宕神社の2本並んだイチヨウの巨樹。市指定天然記念物で樹高は25m。



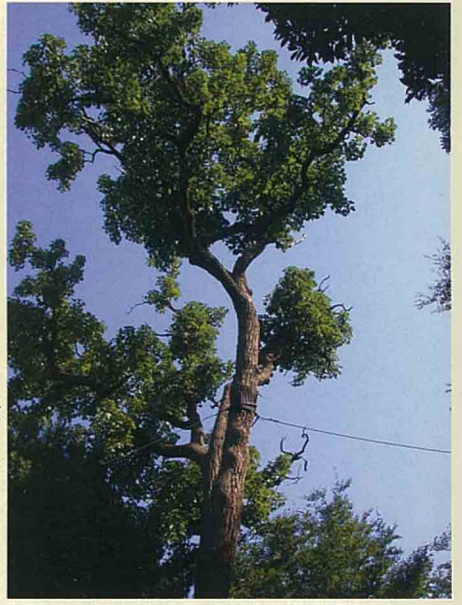
19 松戸市との境界近くにある禪照庵のラカンマキ。樹高は9mだが、ラカンマキとしては県内最大級の大きさ。市指定天然記念物。



20 この地域への北からの入口は、北総鉄道北国分駅。歴史博物館や堀之内貝塚公園へも近い。



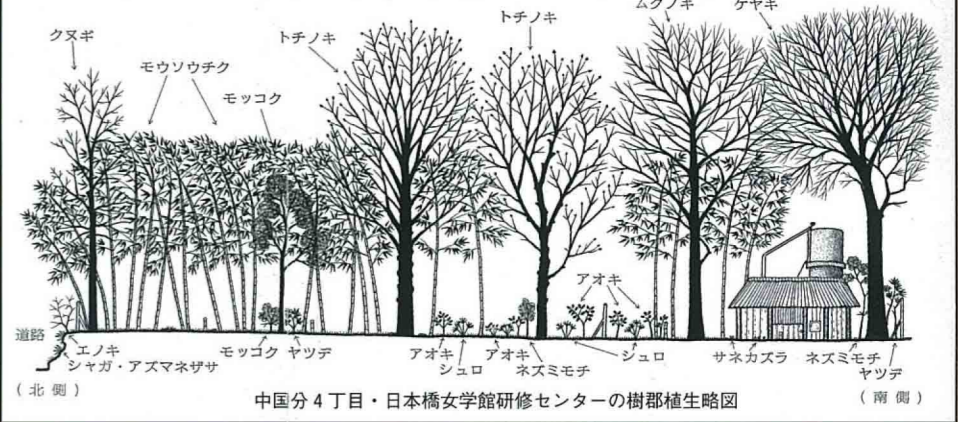
21 22 イザナギ神社の入口とハリギリ。これも市の天然記念物で、胸高幹周3m、樹高約20m、最近少し元気がないのが気がかり。



23 北国分駅から南へ向かう道路に植えられた、武蔵野2号と呼ばれるボプラのような樹形のケヤキ。



24 大雨から市街地の洪水を防ぐための国分川調節池。水鳥の飛来地にもなっている。



25 日本橋女学館研修センターの竹林に落ちたトチの実。じゅんさい池の東側の台地の上にある。



26 弁天池公園。春日神社脇の道を北進すると、日本一の広さを持つ曾谷貝塚が、その先の坂道を下った松戸市との境界近くに弁天池がある。



27 松戸市から続く春木川の流れ。水質改善の努力が続けられて、CODの数値もかなり良くなってきた。



28 北側からの曾谷緑地入り口。ここは谷津と台地との境、かつては底なしの田んぼで、農家の苦労は大変なものだったといわれる。



29 菅野終末処理場(国分川と春木川が合流して、さらに真間川へと流れ込む)。潮の干満で水の流れる方向が変わる。コイ、ボラ、ハクレンなどが見られる。

大門通りから弘法寺へ



7 東京方面から電車で江戸川にさしかかると、すぐに視界に飛び込んでくるのが、国府台の斜面林の素晴らしい！



1 JR市川駅北口は、この地域の自然観察とともに歴史を訪ねる散策の入り口でもある。ポストの横にある文学散歩案内板。大門通りには、万葉の歌のパネルがある。松土手公園には、市川ゆかりの作家の作品紹介もある。

★植生図3点は石井信義氏が1980年頃にかかれたもの。環境の変化に伴う現況との比較を現地で確かめていただきたい。
★道路は主なものを示してある。縮尺は 1 : 17000.おおよその目安は6cmが1km。
0 1km

★マップデザイン: 八木 隼

